

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	9	学校名	茨城県立磯原郷英高等学校						課程	全日制普通科			学校長名	小出 岳夫			
教頭名	濱津 邦仁									事務(室)長名	大森 聡						
教職員数	教諭	18	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	36	
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科	15	12	18	15	34	12			67	39	4					

2 目指す学校像

地域の伝統及び文化を継承し、地域と共に生き、地域、日本そして世界の明日を担う有為な人財を育成するため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。

- 生徒一人ひとりが、人間性やひたむきに物事に取組む姿勢を高める学校
- 生徒一人ひとりが、知性・徳性・体力を調和よく高める学校
- 適性や能力に応じて、生徒一人ひとりが自己実現を目指す学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性とひたむきに物事に取組む姿勢の育成 ○知・徳・体の調和と自ら成長し続ける資質・能力の育成 ○個性や能力を伸ばし、自己実現を目指す資質・能力の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と体験的な学習活動の充実 ○地域を題材とした組織的・計画的な探究活動の実践 ○個々の適性や希望に応じた進路実現に向けた学びの展開
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○何事にも積極的かつひたむきに取組む意欲のある生徒 ○規範意識を持ち、自ら成長しようとする意欲のある生徒 ○適性や関心を見つめ、目標に向かって努力する意欲のある生徒

別紙様式1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒による学校評価調査から、「家庭学習時間が1時間未満の生徒」は73%おり、特に、45%の生徒は家庭学習時間が0時間である実態がある。同調査で、「教員は教え方を工夫し、熱心に教えている」と考える生徒は75%おり、また、80%の生徒が「意欲的に授業に取り組んでいる」と回答しているが、客観的に観察すると授業への集中維持に課題がある生徒が多い。	生徒が学習に集中して取り組み、生徒の学びが、主体的な学び、協働的な学び、探究的な学びとなるように授業内容の工夫と改善を図り、生徒の学力の定着と向上を図る。
進路指導	生徒による学校評価調査から、76%の生徒が、「進路に関する行事や進路情報が適切に提供されている」と考え、77%の生徒が「指導や相談がよく行われている」と考えている。しかしながら、実際には将来の目標を早期に明確にできず、進路希望に応じた具体的な取組を開始する時期が遅い生徒が多い。就職では多くが地元企業への就職を希望し、進学では、県内の上級学校への進学が多い。	生徒の個に応じたきめ細かな進路指導をより効果的に展開するため、1年次より3年間を見通したキャリア教育指導計画の明示を図る。
生徒支援	規範意識に欠ける生徒が見られ、生徒による学校評価調査から、「生徒は校則や学校の約束を守っている。」と考える生徒は57%にとどまった。教員からの働きかけを根気強く行っており、挨拶や身だしなみなどを土台として規範意識の涵養を図りつつあるが、まだ十分でない。	規範意識を高め、望ましい人間関係を構築する力を育成する手立ての研究と実践。
特別活動	生徒による学校評価調査から、72%を越える生徒が「HR活動や学校行事が充実しており、生徒が意欲的に取り組んでいる」と考えている。しかしながら、生徒が主体的に企画立案し、活動しているとは言い難い。	生徒が学校行事の企画運営や部活動等に主体的に取り組むための方策の研究と生徒の主体的な活動の支援。
働き方改革	昨年度、教職員の時間外在校時間において、月平均時間は20.6時間、月平均45時間超過者割合は4.6%、月平均80時間超過者割合は0%であった。	教育の質を低下させずに業務内容等の精選を図る研究と実践。

5 中期的目標

1	生徒が学校内外での探究的な学び、協働的な学びをとおして確かな学力を身につけ、一人ひとりの適性と希望に応じた進路実現を図る
2	きめ細かな対応を心がけ、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図り、自律的に行動する生徒の育成を図る
3	豊かな心と健やかな体を育成し、活力ある学校生活の源とするとともに、地域社会に貢献できる人財の育成を図る
4	生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、教職員の在校時間の顕在化と業務改善を図る

別紙様式 1 (高)

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
探究的な学び、協働的な学びをと おして生徒が確かな学力を身につ けるための授業実践	①「授業を通して、知識や技能(技術)が身についた。」(授業評価)と感 じる生徒3.5/4.0以上 ②「授業を通して、考えたり表現したりする力が身についた。」(授業 評価)と感 じる生徒3.5/4.0以上 ③「授業を通して、基礎・基本となる力が身についた。」(授業評価)と 感 じる生徒3.5/4.0以上
I C Tの効果的な活用による教 育の質の向上	④ICT を効果的に活用し、生徒の学びが協働的な学びや個別最適化さ れた学びとなるよう、授業改 善を図る ⑤「学びの進め方を工夫している。」(授業評価)と感 じる生徒3.5/4.0以上 ⑥「先生は適切にアドバイスしてくれる。」(授業評価)と感 じる生徒3.5/4.0以上
ひとり一人の適性と希望に応じた 進路実現	⑦地元企業や地域住民、県内の上級学校との連携など地域の教育力を 活かして、「進路に関する行事 や進路情報の提供が適切に行わ れている。」(生徒による学校評 価)と感 じる生徒80%以上 ⑧「進路に関する指導・相談がよ く行われている。」(生徒による 学校評価)と感 じる生徒80%以上 ⑨就職希望者の就職内定率100% 達成 ⑩四年制大学、医療看護系専門学 校の合格者数3名
自律した生徒の育成	⑪集団生活における自己の役割と責任を自覚させ、社会のルールやマ ナーを守りながら主体的に行動 できる力を育成する ⑫チャイム着席等のルールや、身 だしなみを常に意識させること で、秩序ある学校生活を送るこ とができるようにする ⑬「生徒は校則や学校の約束を守 っている。」(生徒による学校評 価)と感 じる生徒65%以上
地域社会に貢献できる人財の育 成	⑭「あ・そ・ぶ・べ・な」(挨拶、掃 除、部活動、勉強、仲間づくり) の行動指針を実践させる ⑮地元企業や地域住民との連携 など地域の教育力を活かした活 動をとおして、地域の一員であ ることの自覚を高め、併せて地 域社会で役立つ力を育成する ⑯「生徒は学校生活に対していき いきと意欲的に取り組んでいる。」 (生徒による学校評価)と感 じ る生徒70%以上
教職員の在校時間の顕在化と業 務の効率化の推進	⑰授業やその準備にI C Tを効果 的に活用するなどして業務の効 率化を図り、時間外在校時間の 月平均時間を20時間以下にす る ⑱分掌等の校務にI C Tを効果 的に活用するなどして放課後等 の会議や打合せ等を精選する などの業務改善を図り、時間外 在校時間の月平均時間を20時 間以下にする